

塩江ガソリンカー開発活動

代表者 中井 菜月 (創造工学部創造工学科2年)

1. 目的と概要

このプロジェクト事業は、塩江のシンボルであったガソリンカーを復元させ、塩江の地域を盛り上げようとするものです。ガソリンカーは、栄えていた塩江の象徴でありました。戦争でなくなるまでの期間に築かれた、人々の記憶を掘り返すとともに、現在の塩江に若いエネルギーをおくり、盛り上げようと美術展を中心としたプロジェクトです。

2. 実施期間 (実施日)

平成31年4月20日から 令和元年9月30日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業は、塩江美術館、地域おこし協力隊、香川高専、地域の方など多くの方と共同で行いました。メンバーには、国内交換留学で来ていた芝浦工業大学の学生もおり、企画を考えるうえで様々な意見を交換することができました。

また、このプロジェクト事業により、学生は美術展企画の成り立ちや、資料の作成の仕方を学ぶことができました。資料を展示するときどのような配置にすればより伝わりやすいか、照明や館内をまわる導線はどうするのが良いか、最善の状態を考えました。

実際に作品を作るときには、私たちはあえて完成させず、枠組みだけの制作を行ったことにより、来場者は、「実際に乗れるようにしたい」と話をしていたり、「まわりもつくりたいね」と話していたり、する様子も伺え、目的だった地域の人々の中で対話が生まれました。地域の人々が改めて塩江の歴史を振り返り発展させていくきっかけづくりができたと思います。



【企画案を考え中】



【ガラスケースに資料を展示する土台作り】

4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

このプロジェクト事業を実施したことにより、多くのコミュニケーションが生まれました。塩江のことをあまり知らないガソリンカーに興味を持った若者とガソリンカーにのったことがある方、塩江に住みながらも栄えていた時代を詳しく知らない子供たちと塩江に長い間住むおじいちゃん・おばあちゃん、塩江のことを知らなかった私たちと塩江に住む地域の方、何もないところには生まれなかった会話が生まれました。

また、美術展期間中だけでなく、ワークショップ開催時には、コラージュや塗り絵を通して、現在の塩江の自然を、元気な子供たちと一緒に感じ、遊ぶことができました。

なお、この美術展を行えたことは、地域社会にとって、大きな影響を与えたと考えます。ガソリンカー復元実行委員会がありながらも、なかなか資料のまとめも難航していた時に、香川大学や香川高専の学生が参加することで、ガソリンカーの40分の1の模型を作ることができ、それを中心に美術展展示用に実寸大模型を完成させ、文書だけでなく、だれにでもわかりやすいかたちでまとめられたのではないかと思います。



【ワークショップ作業中】



【完成作品撮影会中】



【見学に来てくれた学生】



【40分の1模型】

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

資料集めについては、地域の方に実際にインタビューを行い、自らが感じたことを文書に起こすという作業が大変でした。また、乗車経験のある方々が高齢になっていたため、当時の写真やガソリンカーの模型をもっていき、少しずつ思い出してもらいながらのインタビューになったため、難しかったです。地域おこし協力隊として活躍している方にアドバイスしていただき、インタビューのやり方について学ぶことができました。

制作や、展示については、大学の先生をはじめ、美術館の方にすべてを教えていただきました。美術館の展示は、絵画を置く高さや文字の大きさを来場者の年齢層から計算して配置していたり、大きなから光の入る美術館だからこそできる昼夜の違いを活かす展示方法を考えたり、いろいろなことにこだわってつくっていきました。制作は、ほとんど知識のない学生が多かったため、木材の加工について1から学ぶ必要がありました。機材の使い方や塗料や材の特性を実施しながら学べる機会は、なかなか授業ではないので、とても勉強になりました。



【組み立て作業中】



【展示考案中】

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

予算については、新規のプロジェクトで当初大きな流れしかできておらず、具体的な実寸大模型に関する制作は試行錯誤しながらになりました。結果的に大学内でほとんどを完成させ、最後の組み立てのみを現地で行ったことで、大幅に交通費が削減できました。運搬のトラックの手配を美術館が負担してくれたことも大きな理由の一つであります。

今後、またプロジェクトを行うときは、具体的な予算案をしっかりと計画することが大事だと思いました。途中で必要だと思ったカメラやその機材が購入できず、個人のカメラで代用したため、撮影したかった映像が撮れなかったためです。しかし、今回のプロジェクトを通して、他の団体の方と1つの企画に向けて活動できたことは、大きな財産です。将来、自分で個展を開きたいと考えている学生や、これから企画や地域創生に関わっていきたいと考える学生にとっても、美術館の企画の成り立ちを学べて、とても良い機会となったと思います。

7. 実施メンバー

代表者 中井 菜月 (創造工学部 2年)
構成員 岡本 大輝 (創造工学部 2年) 高垣 悠紀 (創造工学部 1年)
大西 晴子 (創造工学部 2年) 野上 遼太 (創造工学部 1年)
吉田 美佳 (創造工学部 2年)
前田 瑠 (芝浦工業大学 2年)
蘆原 渚咲 (創造工学部 1年)
山下 万由子 (創造工学部 1年)

8. 執行経費内訳書

配分予算額		198,894円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
インクカートリッジ	4	19,116	76,464	※合計
ハレパネ	10	2,830	28,300	
交通費	23	略	35,340	
合計			140,304	